The essentials of imaging

www.minolta.com

Capios 140A
Capios 160A

J 使用説明書

準備しましょう

基本撮影

応用撮影

資料

目次

正しく安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

⚠警告　この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです（左図の場合は発熱注意）。

⚠警告

電池について

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因になりますので、次のことは必ずお守りください。

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。**
- **表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池を使用しないでください。**
- **電池の充電、ショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。**
- **万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。**

ご使用に際して

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。

目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。

交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。

視力障害や失明の原因となります。

⚠警告(つづき)

カメラを濡らしたり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き取り、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

その他

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービステーションに修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さい付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙りが出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。
使用を続けると感電、火災、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管を避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。

しばらく操作をしないでいると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ原因となります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

ボディ底面のこのマーク(CEマーキング)は、本製品が電波障害に関するEU(欧州連合)の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはConformité Européenneフランス語の(ヨーロッパ認定)の頭文字です。

はじめに

このたびは、お買い上げありがとうございます。

「Capios 140A」「Capios 160A」は、高性能エリアAFシステムでピント合わせがより簡単に安心して行えるようになりました。アイスタートシステムをはじめとするさまざまな新機能を搭載し撮影の可能性も広がります。また、それぞれ約3.7倍、約4.3倍のズームレンズを搭載しながらも、トップレベルの軽量・小型ボディを実現しましたので、幅広い撮影シーンで気軽にお使いいただけます。

本書は、「Capios 140A」と「Capios 160A」の共通の使用説明書になっております。

個別の機能に関しましては、その度に説明いたします。

本文中のマークについて

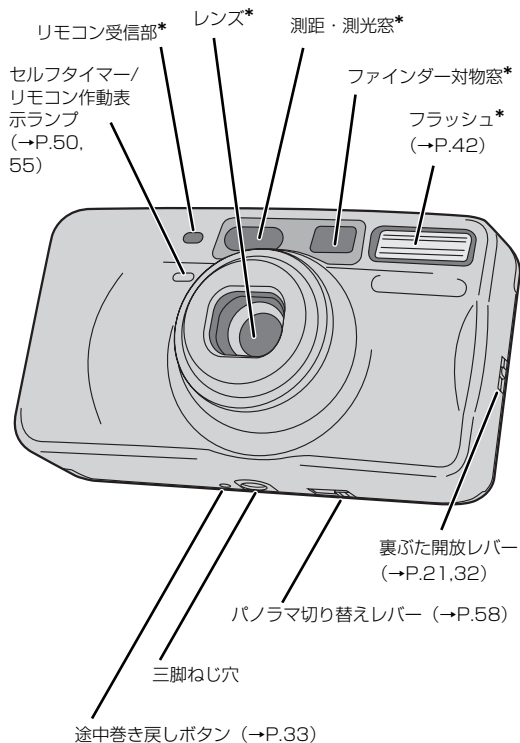
撮影に不都合が生じる恐れのある事項など、特に注意いただきたい内容が記されています。

カメラの基本操作に加え、知っておいていただきたい事項が記されています。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。またお読みになったあとは、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

各部名称

図ではCapios 160Aにて説明しています。

*マークで記されている部分は触らないでください。

フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタン（→P.42-49, 60, 62, 64）

セルフタイマー/連続撮影[*1]/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタン（→P.37, 50, 52, 54, 61. 63, 65）

*1: 連続撮影はCapios160Aのみ

日付・時刻写し込みボタン（→P.20, 60, 62）

液晶表示部（→P.12）

AFモードボタン（→P.34, 36, 64）

メインスイッチ（→P.18, 23）

シャッターボタン

AREA AF

DATE

SEL

ADJ

ON/OFF

W T

アイセンサー*

ズームレバー（→P.24）

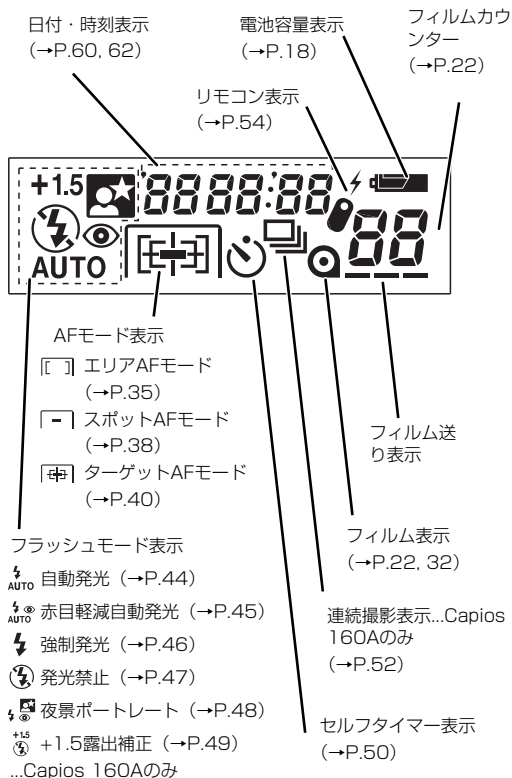
電池室

ファインダー接眼窓*（→P.13）

フィルム確認窓

ストラップ取り付け部

液晶表示部

説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー

緑ランプ（フォーカス表示）

点　　　　灯→ピントが合っています。
すばやく点滅→被写体に近すぎます。
ゆっくり点滅→被写体にピントが合いません。

フォーカスフレーム及びピント位置表示
（説明のためすべて点灯）

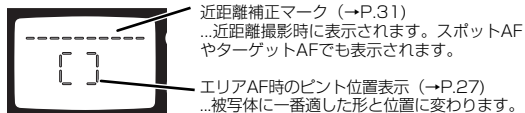
オレンジランプ（フラッシュ表示）

点　　　　灯→フラッシュが発光します。
すばやく点滅→フラッシュが充電中です。
ゆっくり点滅→シャッター速度が遅くなっています（三脚などでカメラを固定してください）。

フォーカスフレーム

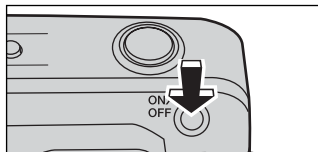
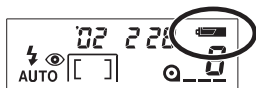
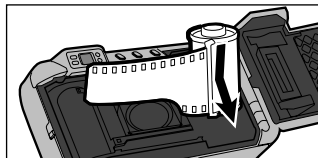
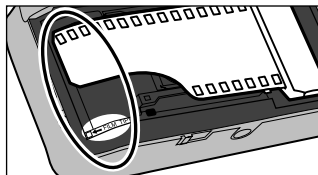
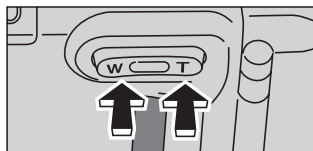
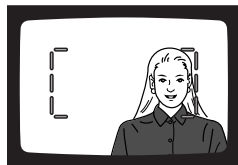
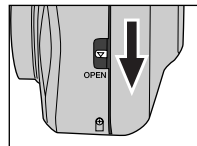
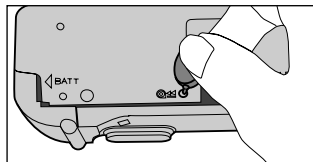
エリアAF(P.35)　スポットAF(P.38)　ターゲットAF(P.40)

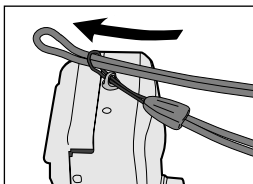
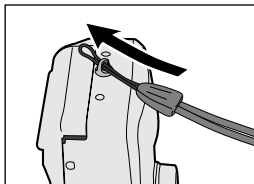
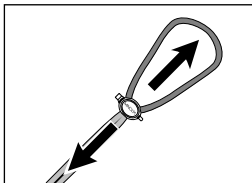
近距離補正マーク（→P.31）
…近距離撮影時に表示されます。スポットAFやターゲットAFでも表示されます。

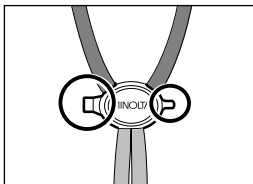
エリアAF時のピント位置表示（→P.27）
…被写体に一番適した形と位置に変わります。

- パノラマ撮影時のフォーカスフレームはP.58を参照ください。
- ファインダー内表示の明るさは調整できます。P.64を参照ください。

基本撮影早わかり

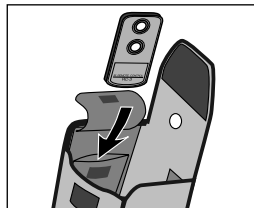
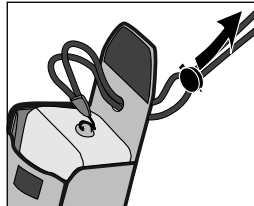
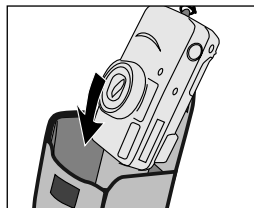
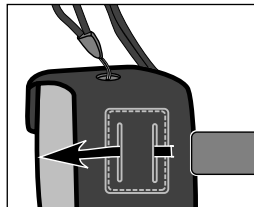
全自動（エリアAFモード）による基本撮影の早わかりを示しています。詳しくは参照ページをご覧ください。

1 メインスイッチを押して、電源を入れます（→P.18）

2 電池容量を確認します（→P.18）

3 フィルムを入れます（→P.21）

4 フィルム先端を「｜←FILM TIP」に合わせ、裏ぶたを閉じます（→P.22）

5 ズームレバーを押して、撮りたいものの大きさを決めます（→P.24）

6 エリアAFフレームの中に撮りたいものがあることを確認して、シャッターボタンを押します（→P.25）

7 撮影が終わればフィルムが自動的に巻き戻りますので、フィルムを取り出します（→P.32）

フィルムを途中で巻き戻す場合（→P.33）

ストラップの取り付け方

図のようにして、ストラップを取り付けます。

●ストラップの持ち手の長さを調整することができます。

ストラップの突起部分の使い方

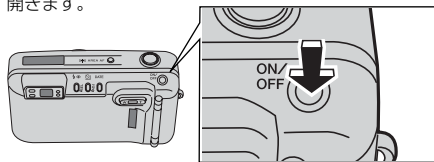
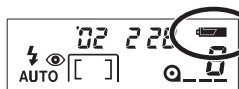
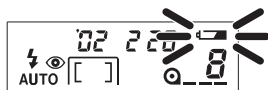
ストラップ突起部分の大きい方で電池室のふたを開けることができます。
また小さい方でカメラ底面の途中巻き戻しボタンを押して、フィルムの途中巻き戻しができます。(→P.33)

ケースの使い方

カメラケースの内側にはリモコン用の収納ポケットがついています。

●リモコン収納時は、リモコン収納ポケットのふたを閉めてください。

ストラップは図のようにケースの穴に通して使います。

ケースはベルトに通して使うこともできます。

電池容量を確認します

お買い上げの際には、電池はすでに入っています。

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

●電源が入ると、ズームレンズが前方に伸び、レンズバリアが開きます。

2 液晶表示部内の電池容量表示を確認します。

が約2秒間点灯
（約2秒後に消灯します）
→電池容量は十分です。

が撮影途中で点滅
→新しい電池をご用意ください。この状態でもしばらくは撮影できます。

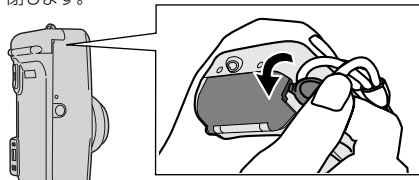
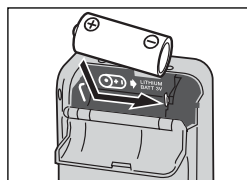
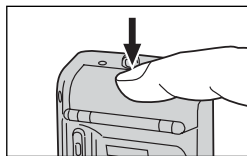
が撮影途中で点滅し、その他の表示が消灯
→**新しい電池と交換してください。****（→19ページ）**シャッターは切れず撮影できません。

●撮影の前には、必ず電池容量をご確認ください。
●お買い上げのときに入っている電池は、出荷時に入れられたものですので、新品電池に比べて消耗が早くなることがあります。

電池を交換します

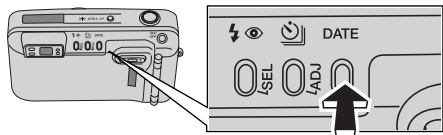
電池は、3Vリチウム電池**CR123A**または**DL123A**を1個使用します。

1 メインスイッチを押して電源を切った後、ストラップについている大きい方の突起で、電池室のふたを開けます。

●電源が切れると、ズームレンズが収納され、レンズバリアが閉じます。

2 電池室の内側の＋－表示にしたがって電池を交換します。

3 電池室のふたを確実に閉じます。

●電池を交換した後や入れ直した後は、日付・時刻表示部に ‒ ‒ ‒ ‒ ‒ ‒ が点滅します。このままの状態では日付・時刻は写し込まれません。正しい日付・時刻に設定してください（→P.60）。
●メインスイッチを押して何も表示されない場合は、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されないときは、電池を交換してください。

日付・時刻を写し込みます

日付や時刻を写真に写し込むことができます。

1 **電源を入れたのち、日付・時刻写し込みボタンを押して、印字内容を選びます。**

●日付・時刻写し込みボタンを押すごとに、液晶表示部の日付・時刻表示が次のように切り替わります。

●日付の年月日の並べ替えは、62ページを参照ください。

●日付・時刻は下図の▬▬の位置に写し込まれます。

標準撮影のプリント

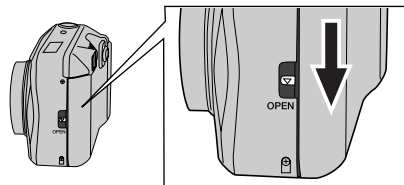
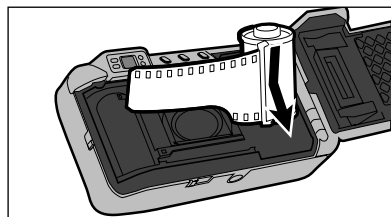
パノラマ撮影のプリント

- ●日付・時刻や------ --が点滅しているときは、写し込まれません。日付と時刻を設定してください（→P.60）。
- ●写し込み位置に、白色／黄色／オレンジ色などの明るい色のものがあると、写し込んだ文字が読みにくくなります。
- ●写し込みは次のコマに巻き上げるときに行われるので、最後のコマでは正しく写し込まれない場合があります。

1. フィルムを入れます

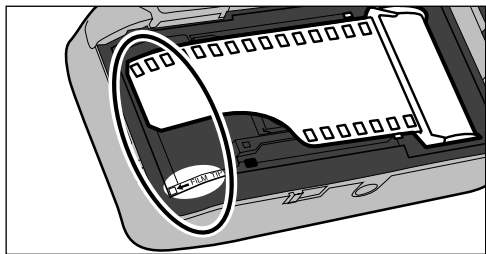
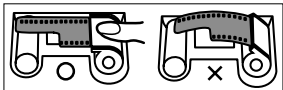
フィルムを入れて、基本撮影を行いましょう。

フィルム確認窓でフィルムが入っていないことを確認してから裏ぶたを開けてください。

1 **裏ぶた開放レバーをカチッと音がするまで押し下げて、裏ぶたを開けます。**

2 **フィルムを図のように入れます。**

このカメラはフィルムを入れると、不用意に裏ぶたが開かないように裏ぶた開放レバーがロックされます（セーフティロック機構）。

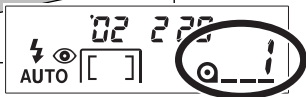
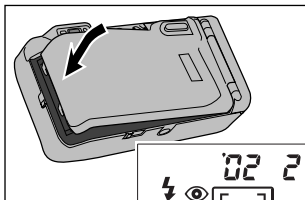
●手ぶれがしにくくフラッシュ光もより遠くに届くISO 400以上の高感度フィルムの使用をおすすめします。

- ●ポラロイド インスタント リバーサル フィルムは、巻き上げがうまくできないことがありますので使用しないでください。
- ●フィルムの出し入れは直射日光を避けて行ってください。

3 フィルムの先端を「｜←FILM TIP」マークの左端の線の間に合わせます。

●フィルムが浮き上がらないようにセットしてください。

●フィルムの先端をカメラに入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎたときは、出た部分をゆっくり押し戻してください。

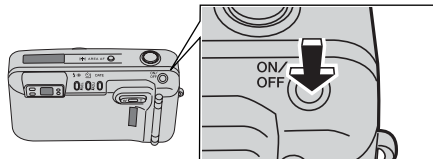
4 裏ぶたをきっちり締めます。

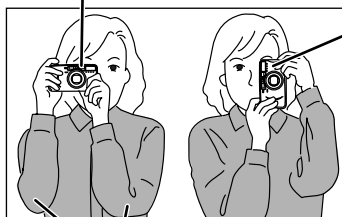
●フィルムが自動的に巻き上げられ、液表示部に ⊙--1 が出ます。

●--0 が点滅しているときは、フィルムが正しく巻き上げられていません。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

2. カメラを構えます

エリアAFモードによる撮影を説明します。

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

●約8分以上何も操作しないときは、レンズが本体内に収納され、節電のため自動的に電源が切れます。

2 カメラをしっかり構えます。

レンズやフラッシュ、測距窓など、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないように。

縦位置ではフラッシュを上にする。

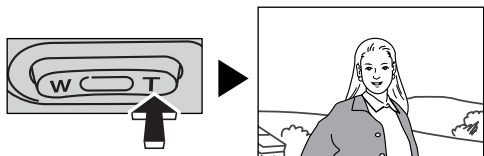
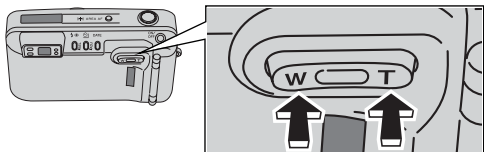
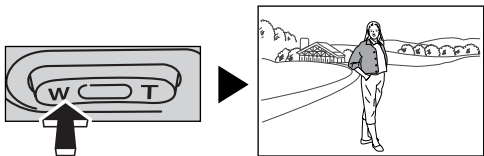
わきをしめ、ひじを体につけて両手でしっかりと構える。

●ズームレンズの伸びた部分を持たないでください。ピントがずれることがあります。

●ズームレンズの動きをさまたげないでください。

アイスタートによる撮影準備
ファインダーをのぞくと、アイセンサーによりカメラを構えたことが検知され、自動的にピント合わせと露出の決定が行われます。（アイスタートシステム）

3. 撮りたいものの大きさを決めます

1 ファインダーをのぞきながら、ズームレバーを操作して、撮りたいものの大きさを決めます。

T側を押すと、より大きく写りますので人物のアップなどに便利です。(=望遠撮影)

W側を押すと、より広い範囲が写りますので、集合撮影などに便利です。(=広角撮影)

●ズームレバーを操作した時、シャッターが切れたような音がすることがありますが、これはズーム時にレンズを事前に移動させているためです。

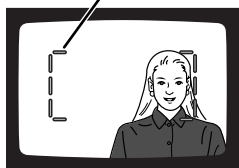
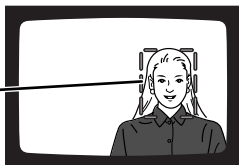
4. 全自動で撮影します

最初に電源を入れると、全自動で撮影できるように設定されています。撮りたいものがエリアAFフレームの中にあれば、自動的にピント合わせを行い、暗いときや逆光のときに自動的にフラッシュを発光します。

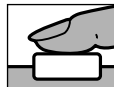
1 ファインダーをのぞいて、エリアAFフレームを撮りたいものに合わせます。

●すぐに被写体へのピント合わせが自動的に行われ、ピントの合ったものや範囲にピント位置表示が現れます。

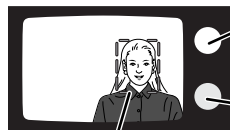
●ピント位置表示は被写体の形状と距離に合わせて変化します。

エリアAFフレーム

ピント位置表示

●アイスタートで検知されないと、エリアAFフレームやピント位置表示は表示されません。そのような場合は、シャッターボタンの半押しで表示されます。

●シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。ここまで押すことを半押しといいます。

シャッターボタンの半押し*

2 **シャッターボタンを半押しして、ファインダー横の緑ランプが点灯したら、そのままシャッターボタンを静かに押し込み撮影します。**

●シャッターボタンを半押しし、緑ランプが点灯している間、ピント位置表示は固定されピントが一時的に固定されていることを示します。

●暗いときには、AF補助光としてフラッシュが発光し、被写体を照らします。

ピント位置表示

緑ランプの点灯
ピントが合っていることを示します。

オレンジランプの点灯
暗い時や逆光のときに、フラッシュが自動的に発光することを示します。

緑ランプがすばやく点滅
→被写体が近すぎてピントが合いません。

緑ランプがゆっくり点滅
→被写体にピントが合いません。

オレンジランプがすばやく点滅
→フラッシュが充電中です。点灯に変わるまで待ってから撮影してください。

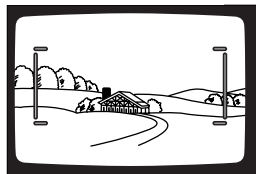
オレンジランプがゆっくり点滅
→シャッター速度が遅くなり、手ぶれを起こします。三脚などでカメラを固定してください。

ピント位置表示の例

撮りたいものが画面中央になくても、エリアAFフレームの中にあればカメラが自動的にピント合わせを行い、以下のようなピント位置表示で知らせます。被写体の種類、位置、大きさによって表示は変化します。

人物撮影の場合

集合写真の場合

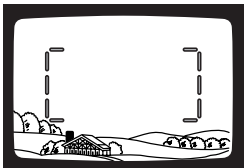
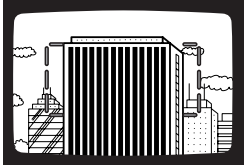
風景写真の場合

エリアAFでのフォーカスロック撮影

シャッターボタンを半押しするとピントが一時的に固定されますので（＝フォーカスロック）、構図を自由に変えることができます。構図が決まれば、そのまま静かにシャッターを押し込んで撮影します。フォーカスロックは何度でもやり直すことができます。

基本撮影

オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラでは、以下のような撮影条件ではピントが合わないことがあります。このような場合は、撮りたいものと同じ距離にある別のものにピントを一時的に固定してください（→P.27, 39 フォーカスロック）。

青空や白壁など、被写体にコントラスト（明暗差）のない場合

繰り返しパターンの連続するもの[*1]

上記の場合、緑ランプがゆっくり点滅して、ピントが合わないことをお知らせします。この場合、カメラは以下の距離にピントを固定して撮影します。

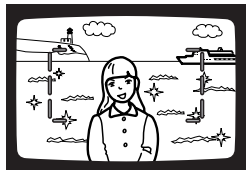
●フラッシュが発光する場合

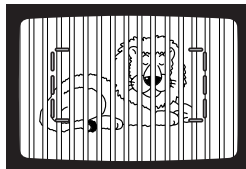
→約3m〜6m（焦点距離による）にピントが固定されます。

●フラッシュが発光しない場合

→無限遠（非常に遠く）にピントが固定されます。

*1：繰り返しパターンの連続するものの場合、緑ランプがすばやく点滅し、シャッターがきれない場合もあります。

太陽のように明るすぎる被写体や、水面などきらきら輝いている場合。
明るい光源がフォーカスフレームのすぐ近くにある場合。

緑ランプが点灯しますが、ピントが人物に合わず、明るい光源に合うことがあります。

遠くと近くに共存するものがある場合。

緑ランプが点灯しますが、遠いライオンか、近くのオリのどちらかにピントのあった写真になります。

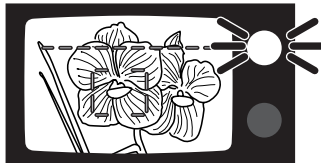
近くのものを撮るときは

このカメラでは以下の距離まで近づいて撮影できます。

Capios 140A: 焦点距離140mm（望遠）では80cm、37.5mm（広角）では60cm。

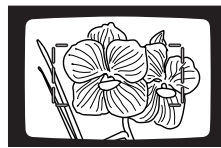
Capios 160A: 焦点距離160mm（望遠）では95cm、37.5mm（広角）では60cm。

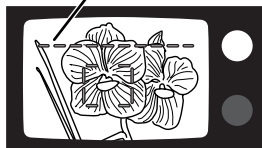
上記以外の最短撮影距離は、焦点距離に合わせて変化します。

- この距離より撮りたいものに近づきすぎると、ピントは合わず、緑ランプがすばやく点滅してお知らせします。シャッターは切れません。
- 撮りたいものが極端にカメラに近い場合、緑ランプがゆっくり点滅してシャッターが切れることがありますが、ピントは合いません。

近距離補正マークの使い方

被写体までの距離が短いと、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲との間にずれが生じます。そのような場合、カメラが自動的に近距離補正マークを表示しますので、以下の要領で撮影してください。

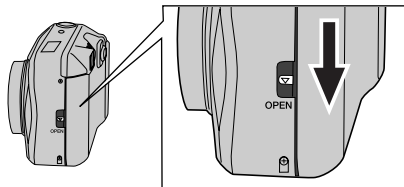
1 ピントを合わせたいものをエリアAFフレームの中に合わせます。

- 被写体までの距離が短い場合は、エリアAFフレームがピント位置表示および近距離補正マークに自動的に変わります。
- 近距離補正マークはスポットAF/ターゲットAFの場合でも表示されます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、カメラを少し上に向けて撮影します。

- フィルムには近距離補正マークの下側（の範囲）にあるものが写ります。
- 撮影距離が短いほど、また望遠側で撮影するほど、ずれの量は多くなります。最大にずれた場合、近距離補正マークの位置が写真の上端になります。

5. フィルムを取り出します

最後のコマまで撮り終えると、ズームレンズが収納され、フィルムは自動的に巻き戻されます。巻き戻し中は、フィルムカウンターが逆算します。

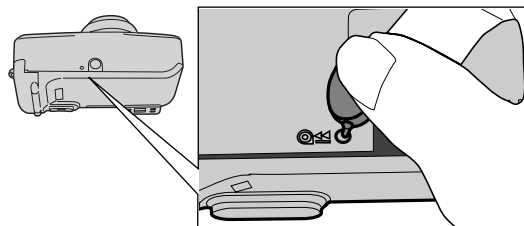
1 液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり ◎ が点滅したら、巻き戻しは終了です。

2 裏ぶた開放レバーを押し下げ、裏ぶたを開けてフィルムを取り出します。

●巻き戻し中はセーフティロックが解除されますので、裏ぶたを開けないようご注意ください。

●すべての表示が点滅して巻き戻しが途中で止まったときは、一度電池を抜いて入れ直してください。

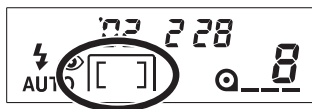
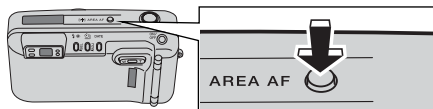
●フィルムの規定枚数以上撮影した場合（例えば、24枚撮りフィルムを使用しているときに25枚以上撮影すること）、最後のコマは現像処理でカットされたり、日付・時刻が正しく写し込まれない場合があります。確実に撮影するには、規定枚数を撮影された後、フィルムを途中巻き戻しすることをおすすめします。

フィルムを途中で巻き戻すには

ストラップについている小さい方の突起部分で、ボディ底面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

●ボタンを強く押し込んだり、シャープペンシルやボールペンなどの先のとがったもので押さないでください。故障の原因となります。

基本撮影

ピント合わせの方法が選べます

ピント合わせの方法（＝AFモード）には下記の種類があり、カメラ上面のAFモードボタンを押すたびに液晶表示部のAFモード表示が下記の順番で切り替わります。

エリアAF（35ページ）
広いエリアAFフレームの範囲でピント合わせを行ないます。

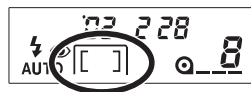
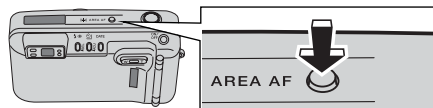
スポットAF（38ページ）
中央部分でのピント合わせを行ないます。

ターゲットAF（40ページ）
シャッターボタンを半押ししている間、ターゲットAFフレーム内の動いている被写体にピントを合わせ続けます。

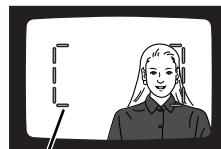
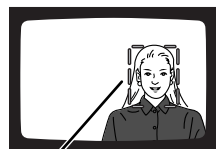
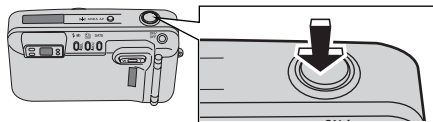
●スポットAFとターゲットAFの設定は、電源を切るとエリアAFに戻ります。

[　] エリアAFでのピント合わせ

エリアAFを選びますと、撮りたいものがエリアAFフレームの中にあれば被写体に自動的にピント合わせを行ないますので、ほとんどのシーンでご使用いただけます。ファインダーをのぞくかシャッターボタンを半押しすると、ピントの合っている位置を表示*します。

1 カメラ上面のAFモードボタンを押して液晶表示部に[　]を表示させます。

2 ファインダーをのぞき、撮りたいものをエリアAFフレームの中に合わせます。

●エリアAFフレームがピント位置表示*（＝ピントの合っている被写体を表示する）に変わります。

応用撮影

3 ピント位置表示が撮りたいものに合っていることを確認した後、シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

*ピント位置表示の方法は、以下の方法で変更できます。

ピント位置表示モードの選択方法

エリアAFでは好みに応じて、ピント位置表示（=ピントの合っている位置の表示）モードを任意に設定できます。

CUSt -１ １：ファインダーをのぞくと、ピント位置表示を表示します。

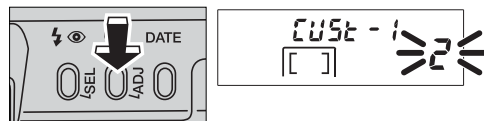
CUSt -１ ２：シャッターボタンを半押しすると、ピント位置表示を表示します。

CUSt -１ ３：ピント位置表示を表示しません。

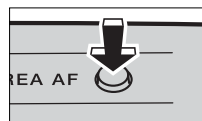
1 カメラ上面のAFモードボタンを2秒以上押し続けて、液晶表示部に「CUSt - 1 □」を表示させます。

●□は現在設定されている表示モードの数字（1～3のいずれか）が点滅します。

●工場出荷時は「CUS t - 1 1」に設定されています。

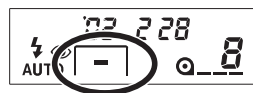
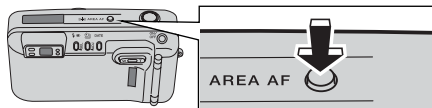
2 セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンまたはズームレバーを押して、希望の表示モードの数字を点滅させます。

3 AFモードボタン押すかまたはシャッターボタンを半押しして、設定を完了します。

●設定が完了すると、液晶表示が点滅から通常の表示に戻ります。

●ピント位置表示モードの設定は、電源を切ったり、電池を交換した後でも、そのまま保持されています。

[-] 中央部分でのピント合わせ（=スポットAF）

スポットAFでは中央の小さい範囲でピント合わせを行ないます。エリアAFフレームではカバーしにくいシーンやオートフォーカスの苦手な被写体を撮影する場合などに便利です。

1 カメラ上面のAFモードボタンを押して液晶表示部に[-]を表示させます。

●ファインダーの中にスポットAFフレームが表示されます。

2 ファインダーをのぞき、スポットAFフレームを撮りたいものに合わせ、シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

●スポットAFフレームはエリアAFのように変化せず、固定されています。

スポットAFフレーム

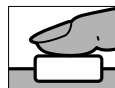
スポットAFでのフォーカスロック撮影

エリアAFフレームではカバーしにくいシーンやオートフォーカスの苦手な被写体(→P.28〜29)を撮影する場合、スポットAFによるフォーカスロック撮影（ピントを一時的に固定して撮影する）が便利です。エリアAFでもフォーカスロック撮影はできますが(→P.27)、スポットAFを使うとより確実に行なえます。

1 ピントを合わせたいものにスポットAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

●オートフォーカスの苦手な被写体の場合は、ピントを合わせたいものと同じ明るさで同じ距離にある別の被写体にスポットAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

●ファインダー横の緑ランプが点灯すると、ピントと露出が一時的に固定されます。

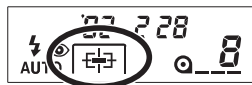
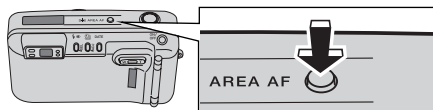
シャッターボタンの半押し*

2 構図を決めて、そのままシャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

応用撮影

動いている被写体へのピント合わせ（=ターゲットAF）

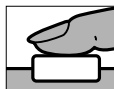
ターゲットAFを使うと被写体が動いていても連続してピントを合わせます。また、シャッターボタンを半押しすると動体予測機能が作動します（P.41参照）。向かってくる子供などを撮るときなどに便利です。

1 カメラ上面のAFモードボタンを押して液晶表示部に を表示させます。

●ファインダーの中にターゲットAFフレームが表示されます。ターゲットAFフレームはエリアAFのように変化せず、固定されています。

2 撮りたいものをターゲットAFフレームの中に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

●ファインダー横の緑ランプが点灯して、動いているものにピントを合わせ続けます。

シャッターボタンの半押し*

ターゲットAFフレーム

3 そのままシャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

●シャッターボタン半押しでターゲットAF使用中に被写体が近づきすぎる場合、緑ランプがすばやく点滅して、シャッターが切れなくなります。この場合は、再度シャッターボタンの半押しをやり直してください。

ターゲットAFでの動体予測によるピント合わせ
従来のオートフォーカスでは、向かってくる子供などの撮影の場合、ピント合わせを行ってシャッターが切れるまでの間に撮りたいものが近づくため（レリーズタイムラグ）、特に望遠撮影の場合などはピントがずれた写真になりがちです。ターゲットAFでは、このピントのずれを自動的に計算してピント合わせを行う**「動体予測によるピント合わせ」**を搭載していますので、向かってくる被写体でもピントの合った写真が撮れます。この動体予測はシャッターボタンを半押ししている間に行われます。

フラッシュ撮影方法が選べます

フラッシュ撮影方法（＝フラッシュモード）には下記のような種類があり、フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押すたびに下記の順番で切り替わります。

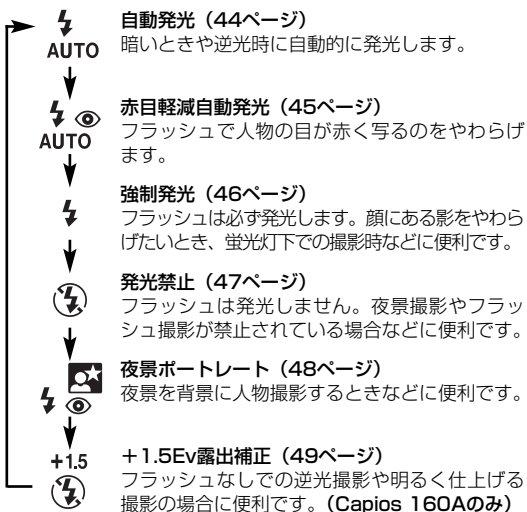
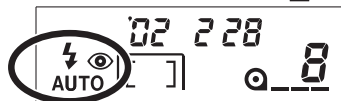
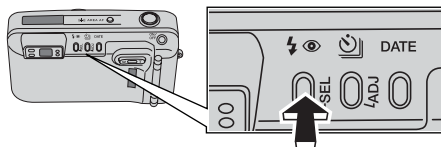
自動発光（44ページ）
暗いときや逆光時に自動的に発光します。

赤目軽減自動発光（45ページ）
フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。

強制発光（46ページ）
フラッシュは必ず発光します。顔にある影をやわらげたいとき、蛍光灯下での撮影時などに便利です。

発光禁止（47ページ）
フラッシュは発光しません。夜景撮影やフラッシュ撮影が禁止されている場合などに便利です。

夜景ポートレート（48ページ）
夜景を背景に人物撮影するときなどに便利です。

＋1.5Ev露出補正（49ページ）
フラッシュなしでの逆光撮影や明るく仕上げる撮影の場合に便利です。**（Capios 160Aのみ）**

●自動発光と赤目軽減自動発光の設定は、カメラの電源を切った後でも保持されます。その他のフラッシュモードは自動発光または赤目軽減自動発光（前回設定していた方）に戻ります。

フラッシュ光の届く範囲

フラッシュ光の届く範囲はレンズの焦点距離とフィルムの感度によって変わります。下の範囲内で撮影してください。

Capios 140A の場合

焦点距離 / フィルム感度	37.5mm	140mm
ISO100	0.6〜4.6m	0.80〜2.1m
ISO400	0.6〜9.2m	0.80〜4.2m

Capios 160A の場合

焦点距離 / フィルム感度	37.5mm	160mm
ISO100	0.6〜4.6m	0.95〜2.0m
ISO400	0.6〜9.2m	0.95〜4.0m

「ネガカラーフィルム使用時」

オレンジランプ（フラッシュランプ）の働き

シャッターボタンを半押ししたときにファインダー横のオレンジランプが点灯すると、フラッシュが発光します。

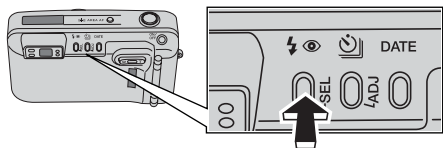
オレンジランプがすばやく点滅
→フラッシュが充電中です。点灯に変わるまでしばらく待ってください（フラッシュ充電時間は、新品電池で約0.5〜6.5秒です）。

オレンジランプがゆっくり点滅
→シャッター速度が遅くなり、手ぶれを起こします。三脚などでカメラを固定してください。

応用撮影

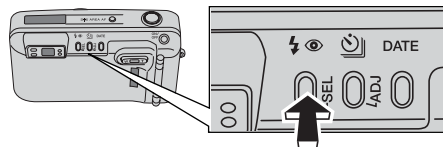
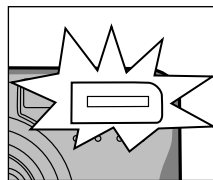
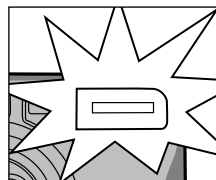
AUTO 自動発光させる（自動発光）

暗いときや逆光のときに、フラッシュが自動的に発光します。

1 **フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して AUTO を表示させせます。**

2 **シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。**

AUTO 目が赤く写るのをやわらげる（赤目軽減自動発光）

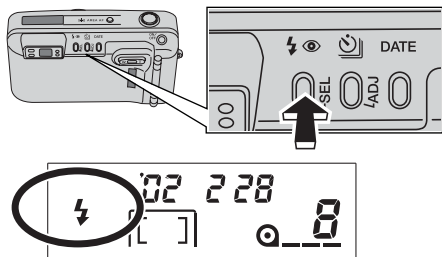
暗い場所で人物のフラッシュ撮影をすると、目が赤く写ることがあります（＝赤目現象）。赤目軽減自動発光ではこの赤目現象をやわらげます。シャッターが切れる前に小光量のフラッシュが数回発光します（プリ発光）。

1 **フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して AUTO を表示させせます。**

2 **シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。**

プリ発光　　本発光

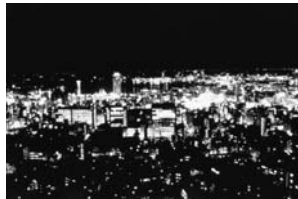
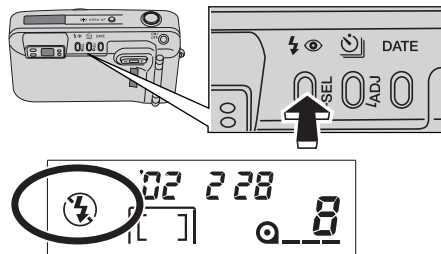
●シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間（約1.5秒間）は、カメラを動かしたり、写される人が動かないよう注意してください。

必ず発光させる（強制発光）

明るい屋外で人物の顔に帽子の影ができているときや、蛍光灯のついた明るい室内で撮影するときなどに、フラッシュを必ず発光させることで、より美しい写真が撮れます。

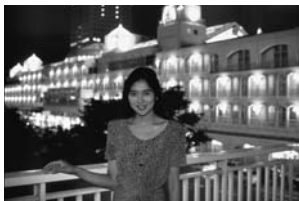
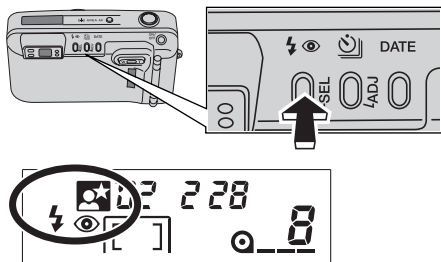
1 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して を表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

発光させない（発光禁止）

暗くてもフラッシュは発光しません。夕景・夜景の撮影や、美術館などフラッシュ撮影が禁止されている場所での撮影時などの場合に便利です。

1 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して を表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

●暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長10秒）、写真がブレやすくなります。ファインダー横のオレンジランプがゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

夜景を背景に人物撮影（夜景ポートレート）

背景の夜景も人物も両方きれいに写せます。シャッター速度も遅くなり、フラッシュも発光します。

1 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して、を表示させます。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

- フラッシュは必ず発光します。またシャッターが切れる前に数回発光します（赤目軽減発光）。
- シャッター速度が遅くなりますので（最長1秒）、三脚などでカメラをしっかり固定してください。写される人にも声をかけて、動かないように気を付けてもらうことをおすすめします。

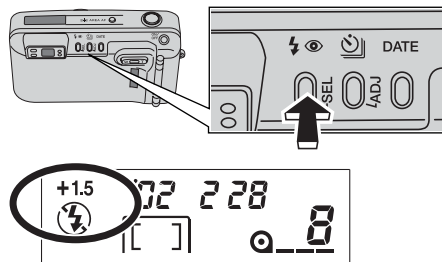
+1.5

＋1.5Ev露出補正

この機能はCapios 160Aにのみ搭載されています。

空が画面の大半をしめる風景や白っぽい被写体で、自然光を1.5段オーバーにして、写したい被写体をきれいに撮ることができます。

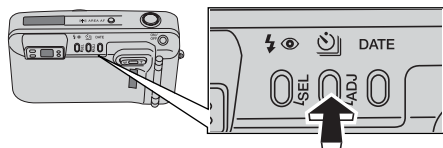
1 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して +1.5 を表示させます。

- フラッシュは明るさに関係なく発光しません。

2 シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。

- 暗いところではシャッター速度が遅くなり（最長10秒）、写真がブレやすくなります。ファインダー横のオレンジランプがゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

セルフタイマー撮影ができます

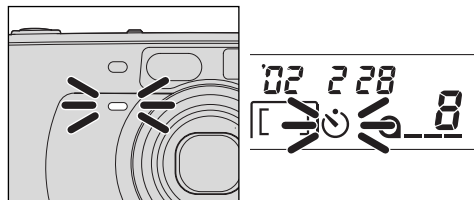
撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念撮影などに便利です。

1 **カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押して、 を表示させせます。**

2 **シャッターボタンを半押しし緑ランプの点灯を確認します。**

●エリアAF/スポットAFの場合、シャッターボタンを半押しすることで、ピントは固定されます。ターゲットAFの場合は、半押しでピントを合わせ続けますので、ピントは固定されません。

3 **シャッターボタンを静かに押し込んで撮影します。**

●カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプと液晶表示部の が点滅し始め、約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる直前にランプの点滅が早くなるので、シャッターの切れるタイミングがわかります。

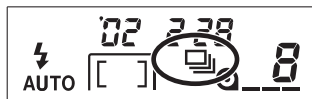
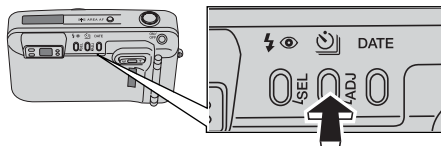
●撮影後は、通常撮影に戻ります。

●セルフタイマー撮影を中止したいときは、シャッターが切れる前にセルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押すか、メインスイッチを押して電源を切ってください。

● カメラの正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。

連続撮影ができます

この機能はCapios 160Aにのみ搭載されています。

シャッターボタンを押し続けている間連続してシャッターが切れます。

1 **セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押して、を表示させます。**

2 **シャッターボタンを半押しし緑ランプの点灯を確認します。**

3 **シャッターボタンを押している間、シャッターが切れ続けます（約2.2秒間隔）。**

- フラッシュ撮影の場合は、フラッシュの充電が完了してからシャッターが切れます。
- シャッターボタンから指を離すと連続撮影は中断されますが、連続撮影モードは設定されたままの状態です。連続撮影モードを解除するには、 セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押して、を消灯させます。
- ターゲットAFの場合、動体予測によるフォーカス制御は1コマ目のみ行います。

応用撮影

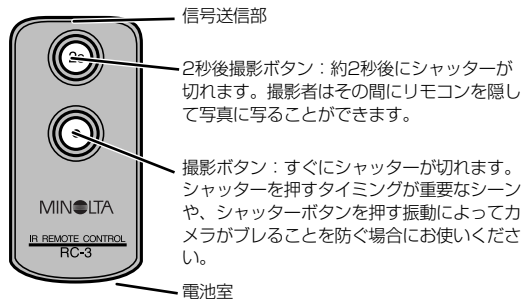
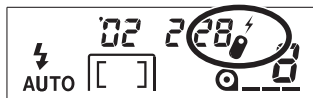
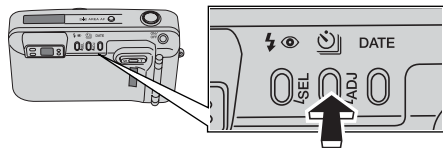
リモコン撮影ができます

付属のリモコン(IRリモコンRC-3)を使うと、カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。撮影者も一緒に写りたいときや、カメラブレを防ぐときにもお使いください。

信号送信部

2秒後撮影ボタン：約2秒後にシャッターが切れます。撮影者はその間にリモコンを隠して写真に写ることができます。

撮影ボタン：すぐにシャッターが切れます。シャッターを押すタイミングが重要なシーンや、シャッターボタンを押す振動によってカメラがブレることを防ぐ場合にお使いください。

電池室

1 カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押して、を表示させます。

●逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影が可能な距離が短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

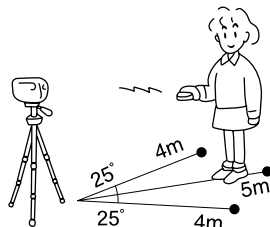
●約8分以上カメラ、リモコンを操作しないと、節電のために電源が自動的に切れます。

2 シャッターボタンを半押しし緑ランプの点灯を確認します。

●エリアAF/スポットAFの場合、シャッターボタンを半押しすることで、ピントは固定されます。ターゲットAFの場合は、半押しでピントを合わせ続けますので、ピントは固定されません。

3 図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラに向け、2秒後撮影ボタン(2s)か撮影ボタン(●)を押します。

●2秒後撮影ボタン(2s)を押した場合、カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプが点滅し始め、約2秒後にシャッターが切れます。

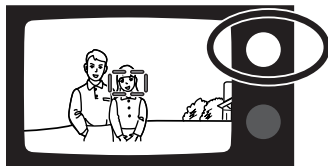
●撮影ボタン(●)を押したときは、ランプが1回点灯してすぐにシャッターが切れます。

●撮影後もカメラはリモコン撮影の設定のままです。解除するには、セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンを押して、を消灯させます。

応用撮影

リモコン撮影でのフォーカスロック撮影

リモコン撮影でのフォーカスロックは、エリアAFかスポットAFでお使いください。

1 シャッターボタンを半押しし緑ランプの点灯を確認します。

- シャッターボタンの半押しは、何度でもやり直すことができます。
- エリアAF/スポットAFではシャッターボタンを半押しするとピントは固定されます。

2 ファインダー横の緑ランプが点灯したら、シャッターボタンから指を離して撮りたい構図に変えます。

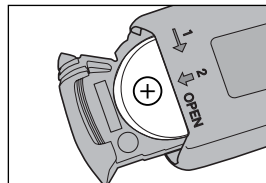
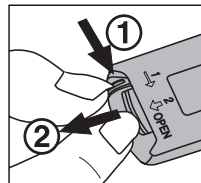
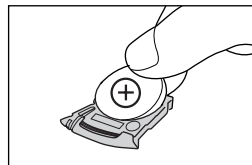
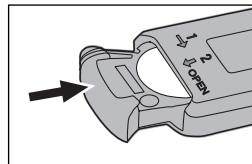
- 指を離すとピント位置表示やフォーカスフレームは消えますが、ピントは固定されています。

3 リモコンのボタンを押して撮影します。

- 撮影後も緑ランプは点灯したままで、ピント位置が固定されていることをお知らせします。同じ距離のものなら続けて撮影できます。
- ピント位置の固定をやめたいときは、セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンでリモコンモードを再設定するかズームレバーを操作してください。

リモコン用電池の交換

リモコン用電池は、リチウム電池CR2032を1個使用します。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。電池の寿命は約10年です（お買い上げのときの電池はそれより消耗が早くなることがあります）。

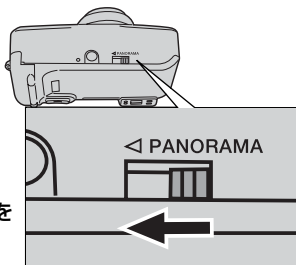
1 ① の方向に押しながら、電池室を ② の方向に引き出します。

2 古い電池を取り出し、+側を上にして新しい電池をいれます。

3 電池室を元どおり確実にはめ込みます。

- リモコン用リチウム電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合はただちに医師にご相談ください。

応用撮影

パノラマ撮影ができます

このカメラはパノラマ撮影に切り替えることができます。

1 カメラ底面のパノラマ切り替えレバーを矢印方向に切り替えます。

- ファインダーがパノラマ用に切り替わります。
- 逆方向に切り替えると、パノラマ設定は解除され、通常の撮影に戻ります。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

- 三脚を利用してパノラマ撮影する場合、パノラマ切り替えレバーを操作してから、カメラを三脚に取り付けてください。

ファインダー内表示

パノラマ撮影での各AFモードでのAFフレームの表示は下記のように変わります。

エリアAFフレーム

スポットAFフレーム

ターゲットAFフレーム

近くのものを撮るときは

- パノラマ撮影では、焦点距離が37.5mm(広角)の場合は70cm（望遠の場合は、Capios 140Aの焦点距離140mmで2.25m、Capios 160Aの焦点距離160mmで2.5m）まで近づいて撮影できます。被写体が近すぎる場合はピントが合わず、緑ランプがすばやく点滅し、シャッターは切れません。

パノラマ撮影したフィルム

図のようにコマの上下がカットされた状態になっています。

- パノラマ写真のプリントサイズは89mm×254mmです。
- パノラマ撮影しても、フィルムの撮影枚数はパノラマ撮影しない場合と変わりません。

パノラマ撮影の現像・プリント

パノラマ撮影されたフィルムであることをお店に伝えてください。

- 通常サイズで現像・プリントに出すと、上下に黒い帯が写し込まれたり、パノラマ撮影したコマだけプリントされないことがあります。

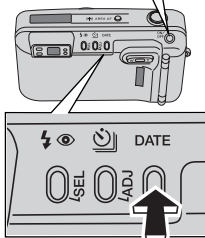
- 実際にフィルムに写った画面よりもプリントされる範囲がやや狭くなる場合がありますので、構図を決めるときは画面の周辺部に少し余裕を持たせてください。

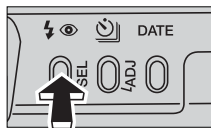
日付・時刻の修正方法

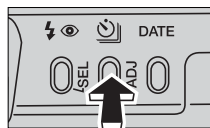
電池を交換したり、入れ直した後（→P.19）など、日付・時刻の修正が必要な場合は、以下の手順で行ってください。

- 電池を交換した後や入れ直した後は、電源を入れると日付・時刻表示部に - - - - - - が点滅します。このままの状態では日付・時刻は写し込まれません。
- このカメラには2099年までの日付が記憶されています。

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

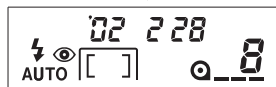
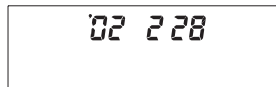
2 日付・時刻写し込みボタンを押して、液晶表示部に SEt を表示させます。

3 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

- 「年」の数字が点滅して、修正可能であることを示します。
- フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押すごとに、年→月→日→時→分の順序で、点滅箇所が変わります。

4 セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンまたはズームレバーを押して、点滅している数値を修正します。

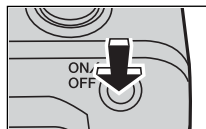
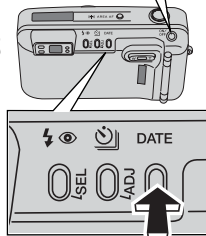
- 押し続けると、数値が早送りされます。
- ズームレバーW側でカウントダウン、T側でカウントアップされます。

5 他にも修正箇所があるときは*3*、*4*の操作を繰り返します。

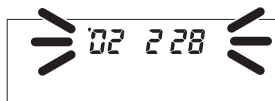
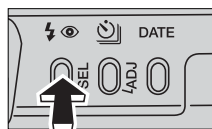
6 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでフラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

- 通常の表示に戻り、修正は完了です。
- 日付・時刻写し込みボタンを押すか、シャッターボタン半押しでも、修正を完了することができます。

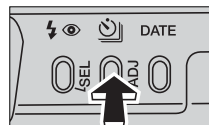
応用撮影

日付の年月日の並べ変え

「年月日」の並びの順序を変えることができます。

1 メインスイッチを押して電源を入れます。

2 日付・時刻写し込みボタンを押して、液晶表示部にSEtを表示させます。

3 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンボタンを約2秒間押します。

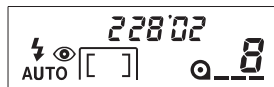
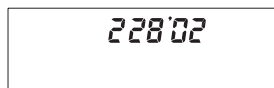
●「年月日」がすべて点滅し、並べ替えが可能であることを示します。

4 セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンまたはズームレバーを押して、年月日の並び方を変えます。

●ボタンを押すごとに、年月日→月日年→日月年の順で並び順を変えられます。

年月日 '02 2 28 → 月日年 2 28 '02 → 日月年 28 2 '02

5 希望の並び順を選んだら、フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

●通常の表示に戻り、修正は完了です。

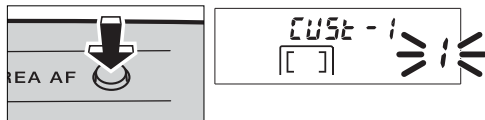
●日付・時刻写し込みボタンを押すか、シャッターボタン半押しでも、修正を完了することができます。

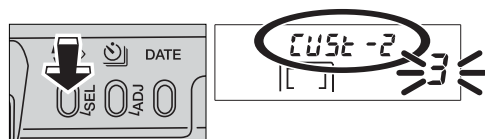
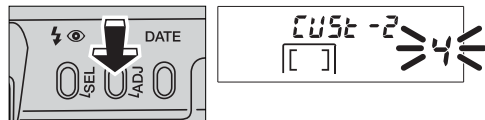
応用撮影

ファインダー内表示の明るさ調整

ファインダー内のAFフレームやピント位置表示は、各撮影シーンの明るさに合わせて最も見やすい明るさに自動設定されますが、この明るさを好みに合わせて調整することができます。

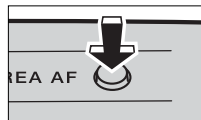
1 カメラ上面のAFモードボタンを2秒以上押し続けて、液晶表示部に「CUSt - 1 □」を表示させます。

●□は現在設定されている表示モードの数字（1〜3のいずれか）が点滅します。

●工場出荷時は「CUS t - 1　1」に設定されています。

2 フラッシュモード/セレクト(修正位置選択)ボタンを押して、「CUSt - 2 □」を表示させます。

●□の値は現在設定されている明るさレベルの数字が点滅します。工場出荷時は3に設定されています。明るさレベルは1から5の間で選べ、数字が下がると表示は暗くなり、数字が上がると明るくなります。

3 セルフタイマー/(連続撮影)/リモコン/アジャスト(数値設定)ボタンまたはズームレバーを押して、希望の数字を点滅させます。

4 AFモードボタンを押すかまたはシャッターボタンを半押しして、設定を完了します。

●設定が完了すると、液晶表示が点滅から通常の表示に戻ります。

●ファインダー内表示の明るさの設定は、電源を切ったり、電池を交換した後でも、そのまま保持されています。

取り扱い上の注意

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は–10～40℃です。
- 直射日光下の車内など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
- 電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

その他の注意

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 電池の容量が十分あるのにカメラが動かなくなったとき、またはフィルムが入ったままシャッターが切れず、巻き戻しもできない場合、フィルムが取り出せないことがあります。無理に取り出そうとせずに、フィルムを入れたまま、カメラをお買い上げのお店または最寄りの当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る（フィルムを入れないでシャッターを切る）ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

手入れのしかた

- カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアブラシで軽く吹き飛ばしてください。
- 測距・測光窓が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

このようなときは…？

症状：シャッターが切れない。

原因	対策	ページ
●電池の入れ方が間違っている。	●電池を正しく入れ直す。	19
●フィルムが正しく装填されていない。	●フィルムを入れ直す。	21
●フラッシュが充電中。	●オレンジランプが点灯してから撮影する。	26
●被写体に近づき過ぎている。	●緑ランプが点灯する距離で撮影する。	26

症状：写真がブレている。

原因	対策	ページ
●暗い所でフラッシュを使わなかったり、夜景ポートレートで撮影したので手ブレをおこした。	●シャッタースピードが遅くなるときは三脚を使用する。	47, 48

症状：写真がボケている。

原因	対策	ページ
●撮影時、測距・測光窓に指がかかっていた。	●測距・測光窓に指などをかけない。	23
●レンズや測距・測光窓が汚れていた。	●レンズや測距・測光窓をきれいにする。	68
●被写体が［　］に入ってなかった。	●ピントを合わせたいものを正しく［　］に入れて撮影する。	25
●撮りたい物に極端に近づいたので、緑ランプがゆっくり点滅しシャッターが切れたがピントが合わなかた。	●ピントが合う距離まで離れて撮影する。	26
●AFの苦手な被写体を撮ろうとしている。	●同じ距離にある別の被写体にフォーカスロックを行う。	28

症状：明るいのにフラッシュが発光する。		
原因	対策	ページ
●手ぶれ防止のためフラッシュが発光することがある。	●ISO400などの高感度フィルムを使用する。	21

症状：フラッシュが発光しない。		
原因	対策	ページ
●自動発光では、十分明るい場所ではフラッシュは光らない。	●必要時、強制発光モードを選択する。	46

症状：フラッシュを使用したのに写真が暗い。		
原因	対策	ページ
●フラッシュ光の届かない距離で撮影した。	●フラッシュ光の届く距離内で撮影する。ISO400などの高感度フィルムを使用する。	43
●フラッシュの前に指をかけていた。	●撮影時はフラッシュの前に指などをかけない。	23

症状：リモコンによる操作ができない。		
原因	対策	ページ
●逆光時など、極端に明るい場所で撮影しようとしている。	●カメラの向きを変えるか、セルフタイマーで撮影する。	50, 54

症状：日付表示が点滅している（日付が写っていない）		
原因	対策	ページ
●電池交換後、日付を設定していなかった。	●日付・時刻を設定する。	60

症状：日付表示を修正できない。		
原因	対策	ページ
●カメラの電源が入っていない状態で修正の操作をしようとしている。	●カメラの電源を入れて、DATEボタンを押し、SEt 状態で修正する。	60

症状：裏ぶたが開かない。		
原因	対策	ページ
●フィルムが入っていないのに、開かない。	●メインスイッチで電源を一度切り、もう一度入れ直す。	18

症状：裏ぶたが開かず、フィルムが取り出せない。		
原因	対策	ページ
●フィルムが巻き戻されていない。	●途中巻き戻しボタンを押す。	33
●フィルムの巻き戻しに失敗した。	●電池を入れ直す。	32

症状：ピント位置表示がおかしい。		
原因	対策	ページ
●測距・測光窓が指紋でよごれている。	●測距・測光窓のを汚れをふき取る。	68
●AFの苦手な被写体を撮ろうとしている。	●同じ距離にある別の被写体にフォーカスロックを行う。	28

症状：フォーカスフレームが表示されない。		
原因	対策	ページ
●アイセンサーがファインダーをのぞいたことを検知せず、アイスタートによる撮影の準備がされていない。	●ファインダーと目の距離を近付ける。 ●シャッターボタンを半押しする。	25

症状：電池の容量が十分あるのに動かなくなった。 液晶表示部の表示がすべて点滅する。 液晶表示が消えてしまった。
対策
電池を入れ直してみてください。繰り返して同じ状態になるときは、故障ですので、カメラをお買い上げのお店または最寄りの当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。

主な性能

カメラタイプ	35mmレンズシャッターカメラ
レンズ	(Capios 140A) ミノルタレンズ37.5-140㎜ /F5.4-11.7 (Capios 160A) ミノルタレンズ37.5-160㎜ /F5.4-12.4
測光方式	125分割測光
シャッター速度	10〜 1/500秒
露出制御範囲 （ISO100）	37.5mm時：Ev3〜 17 (Capios 140A) 140mm時：Ev3.9〜17 (Capios 160A) 160mm時：Ev4.1〜17
使用可能フィルム感度	DXコードにより自動設定 （ISO 25 〜 3200）
ファインダー倍率	(Capios 140A) 0.38〜1.35倍 (Capios 160A) 0.38〜1.51倍
フラッシュ充電時間	約0.5秒〜6.5秒
電源	カメラ本体：3Vリチウム電池 CR123AまたはDL123A リモコン用：リチウム電池 CR2032×1個
撮影可能本数	約10本（新品電池で電池消耗までに撮影できる本数。24枚撮りフィルム、フラッシュ50%使用）
大きさ	カメラ本体：110.5（幅）×60.5（高さ）×46.5（奥行）㎜ リモコン：31.5（幅）×66（高さ）×6（厚さ）㎜
質量	カメラ本体：195g（電池別） リモコン：12g（リモコン用電池含む）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。
●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

ミノルタ株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 03-5351-9410

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 03-3356-6303

受付時間 10:00〜18:00（日・祝日定休）

弊社製品の商品情報については、次のホームページをご覧ください。 http://www.photo.minolta.co.jp/

9223-2472-61 P-C305

Printed in Japan